

日程表・プログラム 第1会場（大講堂）

9:00～10:30

特別講演1 3学会合同講演

SL1 「地域共生社会に向けたリハビリテーション専門職への期待」

演者 村井クリニック 院長 / 宇都宮市医師会 在宅医療・社会支援部担当理事
座長 自治医科大学附属病院

村井 邦彦
南雲 光則

10:40～12:10

特別講演2 第29 回栃木県理学療法士会学術大会企画(3学会合同講演)

SL2 「股関節疾患の最新知見とリハビリテーション」

演者 東京スポーツ医学研究所 主席研究員
座長 国際医療福祉大学塩谷病院

宇都宮 啓
大藤 範之

13:00～14:30

特別講演3 第15 回栃木県作業療法学会企画(3学会合同講演)

SL3 「届けたい教育」でつながる学校と家庭と地域 ～学校作業療法から広がる地域連携～

演者 こどもセンターゆいまわる 代表取締役
座長 小山富士見台病院

仲間 知穂
須藤 智宏

14:40～16:10

特別講演4 第1回栃木県言語聴覚士会学術大会企画(3学会合同講演)

SL4 「STに必要なICFの理解」

演者 鵜飼リハビリテーション病院 顧問
座長 さつきホームクリニック

森田 秋子
幕田 和俊

日程表・プログラム 第2会場（中講堂）

9:00～10:30

教育講演 3学会合同講演

EL 「ChatGPTを臨床に活用する方法」

演者 日高リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 副主任

海津 陽一

座長 国際医療福祉大学病院

塩見 誠

10:40～12:10

シンポジウム 3学会合同講演

SY 「栃木県の地域共生社会の未来について語る」

座長

だいなリハビリクリニック

細井 直人

「栃木県における地域共生社会の取組とリハビリテーション専門職への期待」

演者/シンポジスト

栃木県 保健福祉部 高齢対策課 副主幹

長谷川 真澄

「宇都宮市の重層的支援体制整備事業について」

演者/シンポジスト

宇都宮市 保健福祉部 保健福祉総務課 地域共生推進室 係長

野澤 純

「地域共生社会におけるリハ専門職の役割」

演者/シンポジスト

介護老人保健施設 リハビリパーク ぶどうの舎 リハビリ課

栃木県リハビリテーション専門職協会 地域包括ケア・介護予防推進部会 部会長

寺田 圭甫

シンポジスト 村井クリニック 院長 / 宇都宮市医師会 在宅医療・社会支援部担当理事

村井 邦彦

13:00～14:00

STセレクション演題

座長

足利赤十字病院

川島 広明

S-S1 介護老人保健施設に入所する85歳以上の高齢者の嚥下機能と食形態の経時的変化に関する調査

介護老人保健施設 夢彩の舎

小野崎 夏海

S-S2 ESPIにより嚥下機能が改善し経口摂取が可能となった症例

とちぎメディカルセンターとちのき

竹村 優花

S-S3 神経心理検査と運転技能評価における乖離の検討～教習所との連携を通じて～

国際医療福祉大学塩谷病院

益子 和人

S-S4 交叉性失語症例に対するRISP訓練の効果

国際医療福祉大学

小林 佑哉

14:10～15:10		PTセレクション演題	
	座長	足利赤十字病院 国際医療福祉大学	北岡 清吾 渡邊 観世子
S-P1	神経筋電気刺激と弾性テープによる足関節可動域拡大効果 ：ランダム化クロスオーバー試験を用いた静的ストレッチングとの比較	国際医療福祉大学病院	伊藤 梨也花
S-P2	通所高齢者における筋肉量過剰判断の加齢的变化	国際医療福祉大学塩谷病院	山木 遥介
S-P3	多職種連携による訪問リハビリテーションが重症心不全患者の再入院予防と生活空間の拡大に寄与した一症例 さつきホームクリニック さつき訪問リハビリステーション		水沼 史明
S-P4	食思不振、運動意欲低下した重度サルコペニア患者に対し、筋肉量増加と身体機能向上を目標に 管理栄養士と連携し介入した症例	新上三川病院	中林 確樹
S-P5	心不全患者における不安の構造的特性と臨床的要因との関連性の検討 －STAIを用いた主成分分析によるサブ解析－	国際医療福祉大学病院	遠田 海佳
S-P6	食の“単調さ”がフレイルを進行させる －地域在住高齢者における食品摂取多様性と1年後のフレイル悪化との関連－	国際医療福祉大学	広瀬 環
15:20～16:00		OTセレクション演題	
		足利赤十字病院 今井病院	松川 勇 伊是名 興平
S-O1	高次脳機能障害に対するCBAカンファレンスの有用性の検討 ー身体拘束解除と在宅復帰を達成した一症例ー	新上三川病院	小野塚 美冬
S-O2	橈骨遠位端骨折術後患者における動作遂行前後の主観的遂行度の検討	獨協医科大学日光医療センター	飯塚 裕介
S-O3	当院におけるZone5手指伸筋腱断裂に対するICAM法(制限下早期自動運動)を用いた作業療法実践	石橋総合病院	清永 健治
S-O4	箸操作における「出来ない」という思い込みが変化したパーキンソン病患者 ～満足度向上と行動変容に繋がった一症例～	国際医療福祉大学病院	柳沢 安純
S-O5	保育所との連携による新たなリハビリテーション提供体制「リハビリ保育」における介入量の実態調査 つくば公園前ファミリークリニック		方喰 醇
S-O6	“主婦という役割”が取り戻した生活のリズム～MOHOSTとOSAによる主体的生活の再構築～	新上三川病院	高山 励人

日程表・プログラム 第3会場（大会議室R）

9:50～10:50		ポスターP1	
		座長	宇都宮リハビリテーション病院 リヤンド那須
			青木 克弥 今井 樹
P1-1	健常者における床上動作時の重心加速度変化について	リハビリテーション翼の舎病院	宇都木 康広
P1-2	ヘッドマウントディスプレイによる半側遮蔽画像と半側遮蔽眼鏡を使用し左半側空間無視患者に正中付近へ注意を促した効果の比較	栃木県医師会塩原温泉病院	溝垣 健一
P1-3	パーキンソン病患者に対するAirPodsを用いた聴覚刺激の歩行パフォーマンスへの影響	国際医療福祉大学病院	野澤 拓夢
P1-4	脳卒中片麻痺患者に対して随意運動介助型電気刺激を用いた起立着座動作反復の効果ー外部Assistモードが歩行能力に及ぼす影響ー	栃木県立リハビリテーションセンター	大森 建太
P1-5	運動失調が運動に及ぼす影響について	石橋総合病院	熊倉 康博
P1-6	COVID-19関連ウイルス性脊髄炎を発症し不全麻痺によるに歩行障害を呈した症例	新上三川病院	高子 千里
P1-7	独歩を獲得した脊髄ヘルニア術後症例の経過報告	国際医療福祉大学病院	塚原 翔
P1-8	大腿骨頸部骨折を呈した脳出血後遺症患者に対し短下肢装具を処方しバランス能力が改善した一症例	新上三川病院	松尾 駿佑
P1-9	口で動かすジョイスティック～寝たきり混合型脳性麻痺児が電動車いすでの自立移動を獲得するまで～	国際医療福祉リハビリテーションセンター なす療育園	小笠原 悠人
P1-10	脳卒中のリハビリテーション ～移乗動作の自立と外出支援に向けた取り組み～	NEW STORY	横地 翔太

11:00～11:50		ポスターS1	
	座長	栃木県医師会塩原温泉病院 小金井中央病院	高野 陽子 盛合 彩乃
S1-1	Wallenberg症候群患者の嚥下障害に対する急性期ST介入と機能回復の経過	新小山市民病院	熊倉 智恵美
S1-2	特別養護老人ホームに言語聴覚士が出向し、 胃瘻造設後も楽しみレベルの経口摂取を継続できた症例	国際医療福祉大学病院	小笠原 まなみ
S1-3	経管栄養を導入した呼吸器疾患患者における転帰先に関わる入院前情報の重要性について	那須赤十字病院	田口 里香
S1-4	回復期病院での摂食嚥下障害患者における入退院時の食形態の変化	リハビリテーション翼の舎病院	平野 絵美
S1-5	ADHD児におけるセルフマネジメントスキルを用いた自己制御の獲得	県北児童相談所	宇留野 哲
S1-6	右被殻出血後に人物誤認を呈し残存した一例	リハビリテーション花の舎病院	小島 孝文
S1-7	神経心理学的検査結果の向上を認めたが実車評価にて 不合格となった脳梗塞症例に対する因子の検討	国際医療福祉大学塩谷病院	佐藤 圭太
S1-8	栃木JRAT10周年の歩みと今後の課題	栃木県立リハビリテーションセンター	佐藤 文子
13:00～14:00		ポスターO3	
	座長	自治医科大学附属病院 新上三川病院	永田 玲奈 岩瀬 直樹
O3-1	脳幹出血患者に対してMALが向上し麻痺側上肢のADL参加が増えた症例	新宇都宮リハビリテーション病院	阿久津 圭
O3-2	急性期脳出血後の麻痺側上肢に対するCI療法の実践と障害受容の変化	新小山市民病院	滝田 実紅
O3-3	注意障害を併発した脳卒中急性期患者に対する修正CI療法の一症例	新小山市民病院	日下部 悠太
O3-4	Mixed Reality デバイスとIADL訓練を併用し自己認識が改善した一症例	栃木県立リハビリテーションセンター	横松 靖子

O3-5	ADOCを活用した意思の尊重と作業の再構築による生活の質の向上 —精神疾患を伴う再梗塞片麻痺患者に対する介入の一例—	新上三川病院	黒澤 彩乃
O3-6	実動作の反復から食事動作の獲得を図った症例	新上三川病院	岩崎 優奈
O3-7	脳梗塞後に運動麻痺と高次脳機能障害へのリハビリテーション —社会資源の乏しい地域におけるシームレスな運転・復職支援について—	国際医療福祉大学塩谷病院	千吉良 知映
O3-8	急性期病院において片麻痺患者にMELTzを用いた一例	国際医療福祉大学病院	小野 七海
O3-9	失語症を伴う四肢麻痺患者に対するトイレ動作自立支援 —環境調整と認知的配慮を重視した取り組み—	新上三川病院	向谷 颯子
O3-10	妻の介護負担を減らすために排泄動作を獲得した一例	新上三川病院	梅山 真緒

14:00～15:00		ポスターP5	
	座長	石橋総合病院 LC訪問看護ステーション	鈴木 元気 吉田 優
P5-1	特養高齢者における皮膚水分・油分と細胞外水分比の関連	国際医療福祉大学	遠藤 佳章
P5-2	視神経脊髄炎発症後、重篤な視力低下を呈した一症例～難渋した退院調整～	菅間記念病院	鈴木 淳志
P5-3	児童発達支援事業と保育園の連携を活かしたダウン症児の運動・生活機能向上への取り組み 子どもの発達支援にこっとキッズ		鈴木 達也
P5-4	訪問リハビリテーションにおける低栄養を呈した利用者への理学療法介入	西那須野マロニエ訪問看護ステーション	平岡 潤
P5-5	地域在住高齢者における身長および体重の予測と実測の関係	国際医療福祉大学	石坂 正大
P5-6	回復期リハビリテーション病棟における足台の有無が車いす座位の臀部体圧分布に与える影響	国際医療福祉大学塩谷病院	寺内 佑
P5-7	がん終末期患者の症状回復に伴い理学療法と早期の退院調整により自宅復帰が叶った症例	菅間記念病院	小林 拓真

P5-8	ヴィアレブ導入後1年以上の長期使用が可能であったパーキンソン病の1症例 国際医療福祉大学病院	塩見 誠
P5-9	中等症脳卒中患者が外来リハビリテーションにより杖歩行自立した一症例 菅間記念病院	川崎 裕人
P5-10	都市生活を想定した早期介入が功を奏した頸髄損傷の一例 新上三川病院	福間 優也

日程表・プログラム 第4会場（大会議室L）

9:50～10:50		ポスターP2	
	座長	済生会宇都宮病院 栃木県医師会塩原温泉病院	石川 恭平 坂口 裕介
P2-1	特別養護老人ホーム入所高齢者における体組成成分分析で計測される指標とADL変化との関連 -多施設コホートでの検討-	国際医療福祉大学大学院	高山 綾伽
P2-2	通所リハビリテーションにおけるアイフレイルとVR酔いの関係	国際医療福祉大学塩谷病院	西森 和樹
P2-3	レジスタンストレーニング中のMES使用による変化の検討	国際医療福祉大学	伊藤 晃洋
P2-4	筋硬度計測(Shear Wave Speed)のプロープ軸方向は結果に影響する	国際医療福祉大学	屋嘉比 章紘
P2-5	遠隔心臓リハビリテーションの試験運用におけるアンケート調査 ～課題と展望～	獨協医科大学病院	水嶋 優太
P2-6	離床時の頻脈・徐脈と姿勢変化による血圧低下が遷延し離床に難渋したが、HADを回避できた症例	国際医療福祉大学病院	細山 莉瑚
P2-7	複数の内部障害を併存した大腿切断患者に対する義足作成と理学療法介入の一例	足利赤十字病院	清水 祐輔
P2-8	行動変容ステージに着目した心不全療養指導がセルフケアの定着に寄与した症例	国際医療福祉大学病院	斎藤 直哉
P2-9	Ⅱ型糖尿病を有する 廃用症候群入院患者への介入報告	リハビリテーション翼の舎病院	湯澤 宏樹
P2-10	褥瘡治癒促進に対して交流型微弱電流刺激を行った取り組み	とちぎメディカルセンターとちのき	小林 史果
11:00～11:50		ポスターUs(学生セッション)	
	座長	菅間記念病院 介護老人保健施設 マロニエ苑 足利赤十字病院	高澤 寛人 柴 隆広 川田 竜也
Us-1	地域高齢者の歩行イメージ時間と実測時間の違い	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	谷口 紗雪

Us-2	若年成人のロコモティブシンドロームは主観的well-beingと小学校の外傷歴と関連する	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	井上 岳志
Us-3	地域在住高齢者と理学療法学生における認知症の知識と態度の比較	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	松尾 壮朗
Us-4	栃木県がん拠点病院のDPCデータから調査した周術期消化器がん患者に対するリハビリテーションの実施状況と特徴	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	中山 晃孝
Us-5	化学療法を受けた消化器がん患者のリハビリテーションの実施状況と実施者の特徴 —DPCデータを用いた実態調査—	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	橋本 充理
Us-6	地域在住高齢者における階段の使用割合と歩行速度との関連	国際医療福祉大学保健医療学部 理学療法学科	杉森 瑠奈
Us-7	言語聴覚学科の学生の社会活動の参加の実態と参加を志向する要因の検討	国際医療福祉大学保健医療学部 言語聴覚学科	宮崎 優奈

13:00～14:00		ポスターP3	
	座長	芳賀赤十字病院 石橋総合病院	山下 翔 斎藤 裕三
P3-1	座位姿勢に対する意識を把握するためのアンケート調査	鹿沼整形外科	亘 高史
P3-2	介護予防事業参加高齢者を対象としたロコモーショントレーニングによる運動介入の効果:前後比較試験	国際医療福祉大学塩谷病院	吉田 一樹
P3-3	Mini-BESTestを用いた地域高齢者のバランス機能の実態把握とその活用の試み	菅又病院	小林 祐介
P3-4	金属インプラントを有する患者におけるSMI,PhAへの影響	栃木県医師会塩原温泉病院	湯田 みゆき
P3-5	距骨骨髓浮腫による荷重時痛と足関節背屈制限を呈した症例 超音波療法と徒手療法を組み合わせた介入	新上三川病院	石橋 和明
P3-6	人工股関節全置換術後の腰部痛に着目した一例	新上三川病院	小島 光
P3-7	小転子を伴う大腿骨転子部骨折の患者様における独歩獲得への介入	新上三川病院	片庭 依吹

P3-8	左脛骨高原骨折後の歩行再獲得に難渋した症例	新上三川病院	飯塚 雅治
P3-9	BHA術後に股関節機能低下が脚長差を助長していた症例	佐藤病院	吉澤 翔一朗
P3-10	立位姿勢に起因する膝関節伸展制限の改善がTKA後の長距離歩行時痛を改善した一症例	佐藤病院	松井 愛音

14:00～14:50		ポスターO4	
	座長	新小山市民病院 にしなすの総合在宅ケアセンター	上岡 克好 佐々木 由佳
O4-1	運転再開と家事の獲得に向けてADOCとMTDLPを活用しチームで介入を行った症例	新宇都宮リハビリテーション病院	大木 彩絵
O4-2	「歩きたい」の先にある「想い」を支援に繋げた一症例 ー生活行為目標共有シートによるIADL支援の質的変化ー	新上三川病院	寺尾 博幸
O4-3	意味のある作業に向けた意思の可視化と協働的支援の実施 ーMTDLPと生活行為目標共有シートを併用した復職支援の一例ー	新上三川病院	中野 菜々美
O4-4	殻に籠った想いを開いて ～MTDLPとMOHOが導く潮干狩りへの道～	新上三川病院	堀川 拓哉
O4-5	頭髄損傷患者における在宅復帰に向けた介入 ー生活行為向上マネジメントと作業遂行6因子分析ツールを併用した事例ー	リハビリテーション翼の舎病院	岡 宏樹
O4-6	多発骨折患者の入院生活にて価値ある作業とは異なる行為の遂行によって作業機能障害の軽減がみられた事例	獨協医科大学日光医療センター	廣瀬 開
O4-7	犬咬傷にて機能障害が残存した事例に対してADOCとCAODを用いた新たな生活に向けた外来作業療法	獨協医科大学日光医療センター	今高 久
O4-8	生活行為向上マネジメントのもと合意した目標を明確にでき趣味の再開へ繋がった一例	新上三川病院	石嶋 友香子
O4-9	PEOモデルを活用し”してみたい作業”を再構築できた一症例	新上三川病院	羽賀 武蔵
O4-10	人間作業モデルと生活行為向上マネジメントの併用による病棟内生活における他職種連携	新上三川病院	柘植 泰成

日程表・プログラム 第5会場（中研修室）

9:50～10:50		ポスターO1	
		座長	国際医療福祉大学 マロニエ医療福祉専門学校
			野崎 智仁 野尻 真生
O1-1	臨床実習指導におけるカードゲームと生成AIを用いた面接スキル研修の効果	獨協医科大学日光医療センター	須藤 誠
O1-2	TKA・THA術後のADL・IADL訓練種目数と転倒関連自己効力感, うつ・不安との関連 ―ケースシリーズ研究―	国際医療福祉大学	白砂 寛基
O1-3	目標管理と人事考課を活用した人材育成の試み ― 目標管理制度の見直しによる変化の検証 ―	新上三川病院	坂田 尚昭
O1-4	パーキンソン病患者におけるLSVT-BIG®実施後のMini-BESTest下位項目別スコア変化	白澤病院	大島 拓也
O1-5	回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニアの臨床的影響 ～大腿骨近位部骨折患者を対象として～	新上三川病院	関口 峻介
O1-6	回復期リハビリテーション病棟退院後の訪問による生活状況評価 ～ケアマネジャーとの介護保険サービス調整を実施して～	リハビリテーション花の舎病院	横尾 一徳
O1-7	橈骨遠位端骨折術後患者へのTissue Flossing治療経験:3症例での検討	済生会宇都宮病院	菅野 拓巳
O1-8	当院一般病棟における入院患者についての実態調査 ～高齢運動器疾患患者への作業療法のあり方を考える～	栃木県立リハビリテーションセンター	谷津 拓海
11:00～11:50		ポスターO2	
		座長	自治医科大学附属病院 Bridge
			玉野 彩 山口 理貴
O2-1	作業療法中の微弱電流刺激が褥瘡改善と退院支援に寄与した症例	とちぎメディカルセンターとちのき	信末 匡哉
O2-2	愛着障害による問題行動を繰り返す症例の安全基地を整えるまでの実践報告 ～入所施設への訪問の有効性と作業療法士の支援マネジメント～	アイリブ訪問看護ステーション	増山 直希

O2-3	メトレキサート関連脊髄症を合併した節外性NK/T細胞リンパ腫に対する作業療法の経験 ～希望に基づく自宅退院支援の一例～	自治医科大学附属病院	小林 真実
O2-4	「相談」から「まちづくり」へー当法人が考える地域支援ー	那須フロンティア	八木澤 龍之介
O2-5	慢性心不全患者への作業療法士の関わり 生きがいを継続することを目標にして心不全セルフケアを 獲得した症例	国際医療福祉大学病院	石田 卓也
O2-6	急性期骨転移患者の喪失体験に寄り添い、生きがいを再構築できた症例	国際医療福祉大学病院	福田 ひかる
O2-7	知的障がい児に対する自転車運転練習方法の検討	国際医療福祉大学病院	鈴木 駿太
O2-8	精神科病院の入院作業療法に従事する作業療法士が訪問看護を行う利点	佐藤病院	八木澤 祥代
O2-9	医療的ケア児の支援において作業療法士の立場で得た知見 ー地域における課題と訪問作業療法士に求められることー	西那須野マロニエ訪問看護ステーション	石田 里菜

13:00～14:00		ポスターP4	
	座長	新上三川病院 NEW STORY	村中 大樹 横地 翔太
P4-1	運動協調性の改善と行動変容を認めたDCD児への個別理学療法介入	国際医療福祉大学病院	鈴木 暁
P4-2	左視床出血発症し触覚性消去現象を呈し、認知運動課題によりバランス能力改善した症例	那須北病院	佐々木 涼
P4-3	頭頂葉皮質の障害を呈し、感覚障害により麻痺側での支持が困難となった患者に対して 起立動作獲得を目指した症例	リハビリテーション翼の舎病院	長谷川 和輝
P4-4	高齢脊髄小脳変性症患者における長期的リハビリテーション介入の有効性 ー BI・SARAスコアおよび筋肉量の経年変化を指標として	国際医療福祉大学病院	村野 安美
P4-5	重度脳卒中患者に対して覚醒向上を起点とした介入を通じて寝たきりから離脱した症例	宇都宮リハビリテーション病院	佐々木 美寿

P4-6	運動学習が困難であった脳卒中患者に対し、課題共有の促進が歩行改善に奏効した一症例 宇都宮リハビリテーション病院	小笠原 大
P4-7	右頭頂葉出血による空間認知障害へ理学療法を行いゴルフ・運転・復職を支援した症例 リハビリテーション花の舎病院	内田 貴裕
P4-8	くも膜下出血を発症しシャント術後に覚醒の改善を認め端座位保持が可能になった症例 新小山市民病院	鈴木 隆仁
P4-9	脳卒中後左片麻痺と亜脱臼を呈した症例に対して、電気刺激(IVES)を活用した上肢介入 リハビリテーション翼の舎病院	坂井 陽介
P4-10	脳出血再発し認知障害を呈した両側片麻痺患者へのHALを使用し移乗動作が改善した症例 栃木県医師会塩原温泉病院	黒川 裕貴

14:00～14:50		ポスターP6	
	座長	国際医療福祉大学 那須南病院	小野田 公 金枝 芳明
P6-1	大腿骨近位部骨折によるリエゾンサービス対象者における入院前の栄養状態と身体機能の関連 那須中央病院	本澤 薫	
P6-2	移乗介助を体験しながら楽しく学ぶ：地域中核病院と定巡の連携による訪問系職種向け実技研修会の意義 株式会社HINATA	小野 雅之	
P6-3	「身体活動・運動ガイド2023」を活用した上三川町高齢者フィットネス講座の実践 新上三川病院	布川 才浩	
P6-4	理学療法士が挑む新たな在宅支援の働き方 ～「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の実例を通して～ 株式会社HINATA	三田 裕一	
P6-5	CEPTを用いた理学療法士の臨床能力に関する検討：経験年数および役職の違いに着目して 新小山市民病院	玉造 翔悟	
P6-6	言語的転回をコンセプトモデルとした本校のPost OSCEについて マロニエ医療福祉専門学校	向山 弘一	